

ひとりひとりが主体となり造形的な見方・考え方を深められる生徒の育成 ～義務教育学校の特性を生かして～

1. 設定理由

美術科・図画工作科の授業において、「見方・考え方」を深めるためには、生徒自身が自在に働かせられるようにする必要がある。本研究は、近年様々な実践がなされている対話的な鑑賞活動を研究の中心とする。鑑賞には、様々な作品が印刷されたアートカードを使う。これまでにあまり見たことのない作品に出会い、感じたことを言語化して伝える過程を経ることで、自他の感性にふれ、見方が広がり、さらに考え方が深まることをねらいとする。

しかし、義務教育学校である本校で、対話的活動を行う際には課題がある。幼少期から共に育ち、家族や親戚同然の人間関係ゆえ、感覚を言葉にせずとも相手に伝わってしまうという強すぎる一体感である。このような人間関係のなかでは、対話での鑑賞活動で効果が出にくく、見方の新たな発見や考え方の深まりなどが起きにくい。その状況を打開するため、異学年での合同の鑑賞活動を行う。異学年の児童生徒を引き合わせることで、学年や学級で表現しにくかった自分なりの考えを伝え、得られなかった新たな発見に出会うことができ、見方・考え方が深まるであろうと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

○異学年と合同に鑑賞することで、自分とは異なった見方・考え方に気づき、主体的に作品と向き合うことができるであろう。

3. 研究内容

○アートカードを使った異学年合同鑑賞授業（実践①：5・8年、実践②：6・9年）

4. 結 論

- 実態調査で見られた学級内の人間関係が固定化してしまっている状況を壊すために、上級生と下級生のペアを意図的に組ませ鑑賞を行うことで、自分の考えをあまり表明しなかった生徒が、班員全員での話し合いでも、積極的に意見を述べるなどいきいきと活動していた。
- 下級生たちは、上級生の発表の様子を間近に見てか、班の話し合いの場面で自分の考えを押し通そうとする児童が、ほとんど見られず、描いた作家の気持ちなどを考える様子が見られた。
- 様々な見方をさせるために設定した活動内容によって、大まかな雰囲気をつかえる見方から、細部へと視点を移行していくような様子が見られた。
- 視点を変えながら見ることに重きを置いた事で、主観にとらわれずに様々な作品を鑑賞する事ができた。
- 実態調査の鑑賞中に、作者の意図や描かれているものなどについて疑問を抱くような声が聞こえていたため、終末にPCでの調査活動時間を設けた。それにより、鑑賞したものを知識として獲得させるのに有効だった。
- 異学年と合同に鑑賞することで、異なった見方・考え方に出会い、友好的に捉えさせることに効果があった。異なる見方・考え方に出会うことで、それを深めたり、自在に働かせたりする事ができた。

印旛支部

成田市立下総みどり学園

菅野 宏美

栄町立安食台小学校

丸山 千尋

提案内容

- 本校の概要
 - ・本校の基本情報について
 - ・カリキュラムや行事について
- 作品鑑賞スペース
- 異学年合同鑑賞授業

Shimofusa

compulsory education school



Midori

思いをつなげる9カ年の連続した学びの実践

成田市立下総みどり学園 概要

下総地区の5つの学校が1つに

4つの小学校

滑河小学校
高岡小学校
小御門小学校
名木小学校

+

1つの中学校

下総中学校

=

下総みどり学園

敷地と校舎



旧下総中学校

旧下総中学校敷地

敷地と校舎



下総小学校建設

下総中学校
グラウンド増設

下総小学校の建設と中学校グラウンドの増設

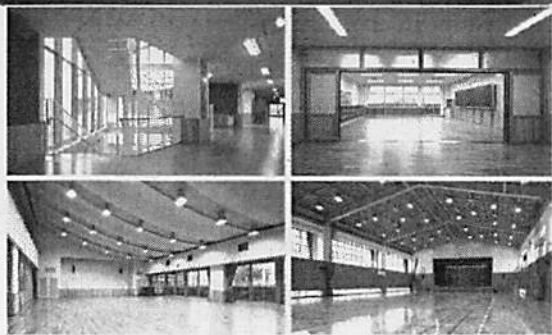
平成26年4月 小中一貫校として開校

平成29年4月 義務教育学校となる



広大な敷地と自然豊かな恵まれた環境

施設・指導体制面の特徴
多目的な空間を多数設置



施設・指導体制面の特徴
職員室はひとつ 全職員の協働の場



カリキュラムや行事

教育課程 - ブロック制の導入 -
4・3・2ブロック制の導入

	前期課程						後期課程		
教職員数	24						23		
ブロック	前期ブロック				中期ブロック		後期ブロック		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2
見生数	39	43	47	48	42	38	48	41	47

教育課程 - ブロック制 -
4年生 1年生を迎える会
就学時健康診断



教育課程 - ブロック制 -
7年生 5年生との合同宿泊学習の企画・運営



教育課程 - ブロック制 -

9年生 全校のリーダーとしての活躍

授業時間の工夫

1～4年		5～9年	
8:15	朝の準備	8:15	朝の準備
8:25	1コマ	8:25	1コマ
8:35	2コマ	8:35	2コマ
8:45	3コマ	8:45	3コマ
8:55	4コマ	8:55	4コマ
9:05	5コマ	9:05	5コマ
9:15	6コマ	9:15	6コマ
9:25	7コマ	9:25	7コマ
9:35	8コマ	9:35	8コマ
9:45	9コマ	9:45	9コマ
9:55	10コマ	9:55	10コマ
10:05	11コマ	10:05	11コマ
10:15	12コマ	10:15	12コマ
10:25	13コマ	10:25	13コマ
10:35	14コマ	10:35	14コマ
10:45	15コマ	10:45	15コマ
10:55	16コマ	10:55	16コマ
11:05	17コマ	11:05	17コマ
11:15	18コマ	11:15	18コマ
11:25	19コマ	11:25	19コマ
11:35	20コマ	11:35	20コマ
11:45	21コマ	11:45	21コマ
11:55	22コマ	11:55	22コマ
12:05	23コマ	12:05	23コマ
12:15	24コマ	12:15	24コマ
12:25	25コマ	12:25	25コマ
12:35	26コマ	12:35	26コマ
12:45	27コマ	12:45	27コマ
12:55	28コマ	12:55	28コマ
13:05	29コマ	13:05	29コマ
13:15	30コマ	13:15	30コマ
13:25	31コマ	13:25	31コマ
13:35	32コマ	13:35	32コマ
13:45	33コマ	13:45	33コマ
13:55	34コマ	13:55	34コマ
14:05	35コマ	14:05	35コマ
14:15	36コマ	14:15	36コマ
14:25	37コマ	14:25	37コマ
14:35	38コマ	14:35	38コマ
14:45	39コマ	14:45	39コマ
14:55	40コマ	14:55	40コマ
15:05	41コマ	15:05	41コマ
15:15	42コマ	15:15	42コマ
15:25	43コマ	15:25	43コマ
15:35	44コマ	15:35	44コマ
15:45	45コマ	15:45	45コマ

1～4年 45分授業
5～9年 50分授業
基本的にはノーチャイム
共通の時間のみチャイム

教育課程 - 教科担任制の導入 -

5年生からの専科教員による指導

英語科	美術科	音楽科	家庭科
5A 5B 5C 5D	5A 5B 5C 5D	5A 5B 5C 5D	5A 5B 5C 5D
5E 5F 5G 5H	5E 5F 5G 5H	5E 5F 5G 5H	5E 5F 5G 5H
5I 5J 5K 5L	5I 5J 5K 5L	5I 5J 5K 5L	5I 5J 5K 5L
5M 5N 5O 5P	5M 5N 5O 5P	5M 5N 5O 5P	5M 5N 5O 5P
5Q 5R 5S 5T	5Q 5R 5S 5T	5Q 5R 5S 5T	5Q 5R 5S 5T
5U 5V 5W 5X	5U 5V 5W 5X	5U 5V 5W 5X	5U 5V 5W 5X
5Y 5Z 5AA 5AB	5Y 5Z 5AA 5AB	5Y 5Z 5AA 5AB	5Y 5Z 5AA 5AB
5AC 5AD 5AE 5AF	5AC 5AD 5AE 5AF	5AC 5AD 5AE 5AF	5AC 5AD 5AE 5AF
5AG 5AH 5AI 5AJ	5AG 5AH 5AI 5AJ	5AG 5AH 5AI 5AJ	5AG 5AH 5AI 5AJ
5AK 5AL 5AM 5AN	5AK 5AL 5AM 5AN	5AK 5AL 5AM 5AN	5AK 5AL 5AM 5AN
5AO 5AP 5AQ 5AR	5AO 5AP 5AQ 5AR	5AO 5AP 5AQ 5AR	5AO 5AP 5AQ 5AR
5AS 5AT 5AU 5AV	5AS 5AT 5AU 5AV	5AS 5AT 5AU 5AV	5AS 5AT 5AU 5AV
5AW 5AX 5AY 5AZ	5AW 5AX 5AY 5AZ	5AW 5AX 5AY 5AZ	5AW 5AX 5AY 5AZ
5BA 5BB 5BC 5BD	5BA 5BB 5BC 5BD	5BA 5BB 5BC 5BD	5BA 5BB 5BC 5BD
5BE 5BF 5BG 5BH	5BE 5BF 5BG 5BH	5BE 5BF 5BG 5BH	5BE 5BF 5BG 5BH
5BI 5BJ 5BK 5BL	5BI 5BJ 5BK 5BL	5BI 5BJ 5BK 5BL	5BI 5BJ 5BK 5BL
5BM 5BN 5BO 5BP	5BM 5BN 5BO 5BP	5BM 5BN 5BO 5BP	5BM 5BN 5BO 5BP
5BQ 5BR 5BS 5BT	5BQ 5BR 5BS 5BT	5BQ 5BR 5BS 5BT	5BQ 5BR 5BS 5BT
5BU 5BV 5BW 5BX	5BU 5BV 5BW 5BX	5BU 5BV 5BW 5BX	5BU 5BV 5BW 5BX
5BY 5BZ 5BA1 5BA2	5BY 5BZ 5BA1 5BA2	5BY 5BZ 5BA1 5BA2	5BY 5BZ 5BA1 5BA2
5BA3 5BA4 5BA5 5BA6	5BA3 5BA4 5BA5 5BA6	5BA3 5BA4 5BA5 5BA6	5BA3 5BA4 5BA5 5BA6
5BA7 5BA8 5BA9 5BA10	5BA7 5BA8 5BA9 5BA10	5BA7 5BA8 5BA9 5BA10	5BA7 5BA8 5BA9 5BA10
5BA11 5BA12 5BA13 5BA14	5BA11 5BA12 5BA13 5BA14	5BA11 5BA12 5BA13 5BA14	5BA11 5BA12 5BA13 5BA14
5BA15 5BA16 5BA17 5BA18	5BA15 5BA16 5BA17 5BA18	5BA15 5BA16 5BA17 5BA18	5BA15 5BA16 5BA17 5BA18
5BA19 5BA20 5BA21 5BA22	5BA19 5BA20 5BA21 5BA22	5BA19 5BA20 5BA21 5BA22	5BA19 5BA20 5BA21 5BA22
5BA23 5BA24 5BA25 5BA26	5BA23 5BA24 5BA25 5BA26	5BA23 5BA24 5BA25 5BA26	5BA23 5BA24 5BA25 5BA26
5BA27 5BA28 5BA29 5BA30	5BA27 5BA28 5BA29 5BA30	5BA27 5BA28 5BA29 5BA30	5BA27 5BA28 5BA29 5BA30

中学校免許所有者教科担任制

教育課程 - 異学年交流 -

全校縦割班活動

教育課程 - 異学年交流 -

上級生と下級生が学び合う場面

教育課程 - 異学年交流 -

生徒会・部活動

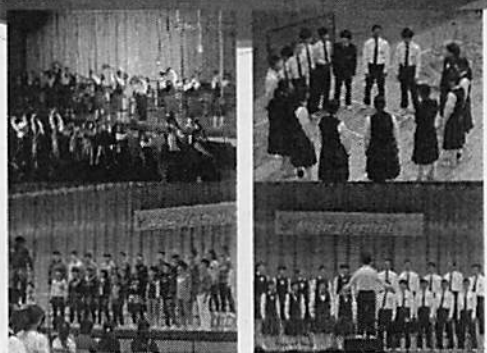
特色ある行事
全校縦割り遠足



特色ある行事
体育祭



特色ある行事
音楽祭



特色ある行事
各ブロックを締めくくる行事



作品鑑賞スペース

作品鑑賞スペース

前期課程(小学校)と後期課程(中学校)
をつなぐ、共有空間に、作品鑑賞ス
ペースを設置



図画工作科・美術科における異学年合同鑑賞授業

成田市立下総みどり学園 図画工作科・美術科の研究主題

「ひとりひとりが主体となり造形的な見方・考え方を深められる生徒の育成」
～義務教育学校の特性を活かして～

1 研究主題について

(1) 学習指導要領の改訂から

新学習指導要領の改訂の趣旨において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「見方・考え方」を働かせることが重要になると示された。「見方・考え方」とは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という視る力や考える力のことである。その力を深めるためには、生徒自身が自在に働かせられるようにする必要がある。図画工作科・美術科では、授業の様々な活動を通して、自他の作品の捉え方にふれるだけでなく、そこから見方・考え方を変化させるような授業の研究にあたってきた。

本研究は、近年様々な実践がなされている対話的な鑑賞活動を研究の中心とする。鑑賞には、様々な作品が印刷されたアートカードを使う。これまでにあまり見たことのない作品に出会い、感じたことを言語化して伝える過程を経ることで、自他の感性にふれ、見方が広がり、さらに考え方が深まることをねらいとする。

しかし、義務教育学校である本校で、対話的活動を行う際には課題がある。幼少期から共に育ち、家族や親戚同然の人間関係ゆえ、感覚を言葉にせずとも相手に伝わってしまうという強すぎる一体感である。このような人間関係のなかでは、対話での鑑賞活動で効果が出にくく、見方の新たな発見や考え方の深まりなどが起きにくい。その状況を打開するため、異学年での合同の鑑賞活動を行う。異学年の児童生徒を引き合わせることで、学年や学級で表現しにくかった自分なりの考えを伝え、得られなかった新たな発見に出会うことができ、見方・考え方が深まるであろうと考えた。

(2) 本校の教育体制から

本校の、「9年間の連続した学び」を意識した教育体制では、小学生から中学生までを同じカリキュラム上で教育している。特に、5学年からの専科制というのは強みである。中学校側の専科の教員が教育活動を行うため、より専門性のある内容や、中学校の内容を意識した学習活動を行うことができる。そのため、今回の研究では、図画工作科と美術科の両方の視点から研究を行う。小学生も中学生も、同一の教員が担当しているため、発達段階の差で見方・考え方に違いや特徴があるのかを事前に調査・分析したうえで、組み合わせることが可能である。お互いに欠けているものを補い、ひとりひとりが自分なりの考えを発信できる場を設定でき、対話的な鑑賞活動の効果を引き出すことができると考えた。その結果、児童・生徒がそれぞれ、見方・考え方を深められるであろう。


以上のことから、本研究の主題を「ひとりひとりが主体となり、見方・考え方を深められる生徒の育成」と設定した。

2 研究仮説について

(1) 実態調査

仮説を立てるにあたり、各学級において実態調査を兼ねて授業を行った。

実態調査1	---8年 題材名「アートカードで鑑賞～どこまで共感させられるか!～」
場の設定	各班3～4人で編成
目 標	「感じたこと共感してもらえるように伝えよう」
活動内容	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small; margin-right: 5px;">雰囲気 細部</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>①---カードを使って、今日の気分を表す。(作品の雰囲気をとらえさせる)</p> <p>②---「共通点探し」神経衰弱のようにカードを2枚めくり、共通点を探し伝える。</p> <p>③---「似たものつなげ」共通点や種類・つながりを考え、机に並べる。</p> <p>④---「カードで4コマ」無作為に選んだ4枚で起承転結のストーリーを班で考える。</p> </div> </div>
考 察	<p>○それぞれの活動のねらい通りに、視点を移行させていく様子が見られた。</p> <p>○社会科で習った知識などを使い、根拠を明らかにしながら観察していた。</p> <p>●人間関係を優先して、言葉を選んでいる様子が見られた。特に女子が多かった。</p> <p>●③では、中心となる生徒の好みが強ク反映された班が多かった。</p> <p>●④では、時代背景などにとらわれて、奇想天外な発想は、ほぼ出ず。</p> <p>●授業後の振り返りでは、「意見が自由に言えず、楽しくなかった」というものもあった。</p>

実態調査2	5年 題材名「アートカードで鑑賞～たくさんの作品と考える～」	
場の設定	各班3～4人で編成	
目標	「友だちの見方や考え方にふれよう」	
活動内容	①---カードを使って、今日の気分を表す。(作品を見させる) ②---「一言連想ゲーム」言葉にあうカードを選ぶ。(雰囲気をとらえる) ③---「似たものつなげ」カードの共通点を見つけながら上下左右に配置する。 ④---「カードで4コマ」無作為に選んだ4枚でストーリーを班で考える。	
考察	○生徒によっては、作品の鋭い分析が見られた。☆ ○④では、陶芸作品などを擬人化するような発想も見られた。 ○人物が描かれている作品は、ストーリーの登場人物として認識していた。 ●④では、人物中心のストーリーが多く、風景は背景として扱われた。 ●相手の考えを受け入れず、自分の考えを押し通そうとする児童が見られた。 ●授業後の感想では、「意見が通らなかった」と、こぼしていた生徒もいた。	

(2) 実態調査のまとめ

どちらの学年も活動内容に応じて、印象などの大まかな見方から細部まで分析する見方へと、視点を変化させていた。また、特に女子に多く見られたのが、友人の反応を予想して言葉や作品を選ぶ様子だった。友人のグループなどが関係しているものと思われる。

5年生は、感じた印象や描かれているもの、好みなどをもとに発言していたが、8年生は、作家の名前や時代背景などが判明するとそれ以上、深く見ようとはあまりせず、見方を深めることが少なかった。

(3) 仮説

仮説 異学年と合同に鑑賞することで、自分とは異なった見方・考え方に気づき、主体的に作品と向き合うことができるだろう。

学年	合同鑑賞会で期待できるメリット	予想されるデメリット
5・6	○作品を細部まで見るという姿勢が生まれるのでは。 ○相手の考えに耳を傾けるという姿勢が生まれるのでは。 ○語勢で伝えるものではないという理解が生まれるのでは。	●時代背景など裏付けある上級生の考えを優先してしまうのでは。
8・9 (中2・3)	○作品の自由な見方・考え方をしる良いと理解が生まれるのでは。 ○下級生をリードする設定により、感じたことを言葉にして伝える姿勢が生まれるのでは。	●下級生の意見を優先してしまうのでは。

【仮説の手立て】

- ① ペアや班のメンバーは、完全に意図的に編成した。実態調査の結果や普段の人間関係を考慮し、活動がスムーズかつ、活動の効果が生まれるように行う。
- ② 作品の見方に変化をつけるために、活動内容に種類を持たせる。前半から中盤は、全体から細部へと視点移す活動を設定し、後半は1つの作品についての調べ学習を設定し、作品を深く見る時間を設定する。

3 研究計画

月	活動内容
5	研究内容の決定、実態調査を基に仮説を立てる ※生徒の実態に掲載
6	実態を踏まえ、異学年合同授業の内容決定および実践
7・8	研究のまとめ

4 研究の実践

- (1) 題材名 「アートカード de 作品鑑賞」
 実践学年 ①5・8学年 ②6・9学年

(2) 題材について

①題材観

本題材の学習指導要領解説との関係は、下記表の内容に基づき設定した。

8・9年 (中学2・3年)	B鑑賞(1)ア(ア)「造形的なよさや美しさを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方・感じ方を深めること。」
	共通事項(1)イ「造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。」
5・6年	B鑑賞(1)ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし自分の見方や感じ方を深めること。
	共通事項(1)ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。

本題材の内容は、美術作品を鑑賞および調査することで、美術文化への興味・関心につなげる題材である。ただし、美術に関する知識の蓄積のみで終わらず、対話的な作品鑑賞を通して見方・考え方を深めさせたい。そこで、作品の調査活動の前に、工夫を加えた鑑賞活動を取り入れ、作品との出会いの場を演出する。アートカードを使ったゲーム形式の鑑賞活動をすることで、先入観などを取り払い、これまで興味を抱かなかった作品に対しても自由に鑑賞することができると思う。

また、本校の環境を生かして取り入れる異学年合同の鑑賞活動では、長い間、共に生活することで固定化された人間関係に異学年が混じり合い活動することで、自他の異なる見方に気づき、考え方を深めることをねらいとしている。活動内容としては、ゲーム感覚でできるものを行い、見方の正解などは求めない内容を意識した。また、実態調査において、それぞれの学年に見方・考え方の特徴がみられたため、上級生と下級生のペアを意図的に作り、対話の場面を多く設定した。これにより、活動中に自然と自他の見方・考え方に触れられると考える。そして、題材の後半は、鑑賞した作品の中から、相手を尊重しながらも自分なりの感性で気に入った作品を1点選び調査活動および作品紹介の作成を行う。

合同鑑賞会は、学年間で見方・考え方の違いを可視化する。それゆえ、異学年が交わって鑑賞することが、どのように効果があるのかを検証し、今後の児童生徒の表現および鑑賞活動に生かしたい。

②生徒の実態

本校の所在地である下総地区は、他に小学校や中学校がなく、児童・生徒達は幼少期から同じ仲間にもまれて過ごしている。家族や親戚同然の人間関係であり、感覚を言葉にせずとも相手に伝わってしまう。これは、中1ギャップを解消し、特別支援の生徒が孤立しにくいという良い面もあるが、外的刺激が少ないため、経験のないことや新しいことへ向かう力が育ちにくいという実態がある。

図画工作科・美術科に関するアンケート(5・6・8・9年 男子84名 女子80名 計164名 6月に実施)

○作品制作の過程で、一番苦労するのはどこですか			
・アイデアスケッチ	58%	・制作(イメージ完成後)	42%
・鑑賞	0%		
○作品のアイデアを作るとき、何を参考にしますか。			
・教科書の参考作品	43%	・関連する資料集	25%
・友人の作品	20%	・これまでに見た記憶など	12%
○好きな作品を選ぶとき、何を重要視していますか。			
・雰囲気	39%	・描かれているもの	26%
		・色	26%
		・その他(材料)	9%

制作前の表現の構想を練る際に、自分自身の好きなものに向き合い、イメージを膨らませたり、関連させたりすることが苦手な生徒が多いことがわかる。アイデアを作る際には、参考書などが主な情報源になるので、完成した作品がとても似てしまい、上手い・下手だけで作品の鑑賞をしてしまいがちである。

③指導観

本校の生徒の実態である、鑑賞時の稚拙な言語活動や新しいものを取り入れることへの積極性の低さなどの課題から、異学年合同鑑賞会を取り入れ、言語活動を引き出す状況を作り出したり、PCを利用してすぐに情報を調べやすくしたりする場を設定する。学年の組み合わせ方は、3学年離れた学年

を選び、顔見知りの関係だが深く関わるのが少ない学年同士で設定する。また、ペアや班は、普段の様子から判断し、教師側で意図的に決める。例えば、発言が苦手な児童生徒は、同じような雰囲気の子と組み合わせたり、逆に、自分の考えを通そうとする児童には、論理的に対処できる生徒を組み合わせたりした。鑑賞会では、それぞれの学年の特性を伝えつつも、見方の刷り込みにならないように指導にあたる。

鑑賞で使用するアートカードは、様々な感覚を感じさせるために、各班 20 枚ほどを配布する。作品の内容は、絵画や彫刻、建築作品など幅広い作品を、偏りのないように事前に確認しておく。

また、今年度、本校の校内研究の中心に ICT の活用があるため、コンピューターの利用も取り入れる。調べ学習の段階では、作品について興味を持ち始めたすぐその場で、作者や題名などを調べさせ、次の時間への動機付けとする。作品紹介の作成では、作品に関する情報のつながりに意識を持たせ、文字のレイアウトや配色などに集中させられるようにする。様々な活動を通して見方・考え方を働かせ、今後の自身の作品制作へと活かせるように指導していきたい。

(3) 題材の目標

【8・9年】

- 描かれている内容や他者の見方・考え方について関心をもち、考えを交流しようとしている。
(美術への関心・意欲・態度)
- 様々な芸術作品について見方を深め、自分の感性を高めることができる。(発想・構想の能力)
- 作品についての情報を整理し、魅力ある作品へと工夫してまとめることができる。(創造的な技能)
- 作品に込められた思いや感情を読み取り、その良さを味わうことができる。(鑑賞の能力)

【5・6年】

- 作品の美しさや、描かれた意図などに関心をもち見ようとする。(図工への関心・意欲・態度)
- 作品を見たり、友だちと話し合ったりすることで、自分の見方や感じ方を深めることができる。(鑑賞の能力)

(4) 学習計画 (6時間扱い…8・9学年)

次	学習内容	評価基準 (評価方法)
1次 (時数1)	<p style="text-align: center;">感じたことを共感してもらえるように伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の共通点を見つけ出す。 ○作品と作品を関連させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを伝え、意見の交換ができる。 【関】(行動観察)
2次 (時数1) 異学年合同	<p style="text-align: center;">鑑賞を通して、作品の見方を深めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の全体的雰囲気をつかむ。 ○作品についてペアやグループ間で意見交換。 ○調べ学習の作品を決める。(PCの利用) 	<p>手立て①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見の交換をしながら、他者の考えに触れることができる。【関】(行動観察・ワークシート) <p>手立て②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の細部まで観察し、描かれているものを読み取ろうとしている。【鑑】(行動観察)
3次 (時数3)	<p style="text-align: center;">作品の面白さや良さを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品の詳細を調べる。 ○集めた情報をまとめなおす。 ○プリントアウトした用紙に、作品画像を模写する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査活動から、作品の主題を見つけ出すことができる。【関】(行動観察・ワークシート) ○作品の魅力が伝わるように、文字などの配置や配色を試行錯誤している。 【発・技】(作品・ワークシート)
4次 (時数1)	<p style="text-align: center;">作品の面白さや良さを感じ取ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お互いの作品紹介を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品紹介から、作品の面白さや新たな発見ができる。 【鑑】(ワークシート)

(5) 本時の指導

①目標








【8・9年】

- 描かれている内容や他者の見方・考え方について関心をもち、考えを交流しようとしている。
(美術への関心・意欲・態度)
- 作品に込められた思いや感情を読み取り、その良さを味わうことができる。(鑑賞の能力)

【5・6年】

- 作品に込められたものを感じ取り、伝えることができる。(鑑賞の能力)

②展開 (2/6)

段階	学習活動・内容〔学習形態〕	◎指導・支援 ○評価	資料
導入 5	1 前時までの流れを振り返る。 〔一斉〕 (1) 鑑賞のルールを確認。 (2) 本時の目標を把握。 (3) ペア・グループの発表。	◎前時の活動を思い出させ、本時の見通しを持たせる。 ◎課題をワークシートに記入させる。 ◎決まりごとを掲示する。	ワークシート プロジェクター
鑑賞を通して、作品の見方を深めよう			
展開 5	2 ウォーミングアップ〔班〕 (1) 一言連想ゲーム (2) アートカードで自己紹介	◎たくさんのカードに目を通させるようにする。	カード配布 内容揭示
	 趣味や特技、ペット、将来の夢、自分の通学路の話など、内容は様々。	「せーの」で指差し、見たポイントなどを説明し合う。	
1 2	3 活動①「探偵ゲーム」〔ペア〕〔班〕 (1) 順番や作品を決める。 (2) ゲーム	◎内容が少し複雑なため、準備段階を区切り、ゲームは一斉に開始する。 ○ペアと相談し、グループで意見を交わしながら、作品を鑑賞している。 【関・意・態】(観察)	ルール揭示
	 6・8年生がどのカードにするか、相談中。	 身を乗り出して、細部まで見ている。	内容・例揭示
1 3	4 活動②「似たものつなげ」〔班〕	◎作品のつながりを自由に考えさせる。例を板書する。 ○作品の全体や細部などを見比べながら、鑑賞できる。 【鑑賞】(観察・ワークシート)	内容揭示
	 様々な特徴を捉えていました。		
1 0	5 作品を1作選び調査。〔ペア〕	◎PCは、すぐに使用できるように、あらかじめ起動しておく。	内容揭示
	 画像からわかるキーワードを入力して、検索。	上級生が、PCの操作方法を教えている。	
終末 5	6 片付け、PCを元の位置に戻す。 〔ペア〕 本時を振り返る。〔個人〕 (1) 振り返りを記入する。 (2) 次時への見通しを持たせる。	◎PCの片付けは、上級生が行うように指示を出す。	ワークシートの回収について板書

5 成果と課題

【手立て①について】

- 実態調査で自分の考えをあまり表明しなかった生徒が、意図的にペアを組むことで、班員全員での話し合いでも、積極的に意見を述べるなどいきいきと活動していた。
- 上級生の女子生徒に関しては、「面倒を見なくちゃ」という意識からか、下級生へ意識が向き、学級内の人間関係に左右されずに鑑賞しができた生徒が多かった。
- 上級生の様子を見てか、班員の意見を聞かずに自分の意見を押し通そうとする児童は、ほとんど見られず、描いた作家の気持ちなどを考える様子が見られた。
- ペアによっては、組み合わせの効果が発揮されなかったものもあった。特に活発な児童への対応に手こずる上級生が見られ、作品をじっくり鑑賞させられなかった。児童生徒の観察が不十分だった。
- ペアとして発言する際に、先輩にお任せしてしまう生徒がおり、先輩の発言を控えてしまったようだった。
- 人数や活動内容が多く、ひとりひとりの発言数がすくなかった。

【手立て②について】

- 最初の「一言連想」から「探偵ゲーム」まで、カードと体の位置がどんどん近づき、細部へと視点を移している様子が見られた。
- 様々な作品を見ることに重きを置いた活動が多く、自分の好みに左右されずに活動できていた。
- 活動中から、作者や作品の意図などについて疑問を抱くような声が聞こえていたので、終末にPCでの調査活動時間を設けたのは、見たものを知識として獲得させるのに有効だった。
- 活動内容が、視点を移行させていくものが多く、自由に発想させる活動が少なかったため、下級生の自由さを少ししか発揮させられなかった。

【ワークシートの感想から】

- 鑑賞活動の内容がゲーム感覚だったため取り組みやすく、作品が身近に感じられた。
- 上級生は下級生の自由な発想にふれたことで、作品を見るときに歴史的な事実などを考えすぎだったと、これまでの自身の見方を振り返り、見方の変化を自覚していた。
- 後輩の作品に対する考えを、発見として感じていた。
- 先輩の細部まで注目し、色々教えてくれ、尊敬の念を抱くような感想もいくつかあった。

【8学年の生徒の変容】

生徒	普段の様子	以前制作した作品	鑑賞後に選んだ作品	変容に見る成果と課題
Aさん(女子)	ハキハキとしている。作品は、いつもかわいらしい感じ。丁寧に作品を作る。		 暗くて怖いけど、なぜこんな絵を描いたのか気になる。自画像なのか肖像画なのか。 中村彝「自画像」	いつも筆跡までこだわる生徒が、中村彝の筆跡が残り、骸骨が描かれている作品を選んだ。自身とは異なる感覚を疑問に感じたことで、これを選んだ。色や筆跡から得る感情を、共感的にとらえさせたい。
Bさん(女子)	大人っぽい。いつも落ち着いた色使い。作品制作において、一目置かれた存在。		 色使いが目立っていたし、この作品が何の場面なのか知りたい。 サヴィニャック「石鹸のポスター」	作風が確立している生徒で、あまり人の意見に左右されない。サヴィニャックの色使いに注目したことで、作品紹介も、これまでとは異なっている。相手を意識した表現の獲得へとつなげていきたい。
Cさん(男子)	作品の構想を練るのが苦手。技能においても、かなり支援が必用。		 昔の絵なのに、今っぽい。お話がありそうだから。全部見たい。 「鳥獣人物戯画」	友人や資料の模倣や自身の技能レベルから作品を発想しており、自分の好みを考えたり、作品に興味を持ったりしているのは、大きな変化だ。自分の感覚に自信を持たせるように指導にあたりたい。

本研究にて、異学年との合同に活動することは、異なる見方・考え方に出会うだけでなく、それを友好的に捉えさせることに効果があった。異なる見方・考え方に出会わなければ、それを深めたり、自在に働かせたりすることもできないのどと分かった。さらに、様々な見方・考え方が受容的な環境であることで、主体的に作品と向き合うことができたのだと考える。

小中学生が同じ授業を受けるだけでなく、実態を踏まえた効果的な授業を検討し、さらに児童生徒の変容を見届けられるのは、義務教育学校の特性である。今後も様々な題材での研究を重ねていきたい。

資料

資料1

作品鑑賞スペースについて

前期課程と後期課程を繋ぐ共有の場所に、図画工作科（5・6年）と美術科（7・8・9年）の作品を展示し、自由に鑑賞できるスペースを設置している。休み時間に生徒が多く集まり、今後は、前期課程の作品も展示していく予定。



9年生の絵画

8年生の作品

ここに飾られることを目的として制作した。



8年の生徒

パズルの様子をチェックしている。



1年

※この研究での活用例です。名称やルールは実態に合わせて設定しました。

	活動名	形態	活動内容
A	自己紹介 (異学年合 同時のみ)	1人 ↓ 班	<p>①配られたカードを、全て見える状態にして並べる。 ②そのカードから、「自分を表す」1枚選ぶ。 ③選んだ理由などがわかるように自己紹介をする。 例：「〇年 〇〇です。将来保育士になりたいです。 なので、このカードを選びました」 → </p>
B	今日の気 分を表す	班	<p>①配られたカードを、全て見える状態にして並べる。 ②画像が見える状態のカードから「今日の気分を表す」1枚選ぶ。 ③選んだ理由などがわかるように自己紹介をする。 例：「雨が続いていて、テンションが上がらないです。 なので、このカードを選びました」 → </p>
C	一言連想 ゲーム	1人 ↓ 班	<p>①配られたカードを、全て見える状態にして並べる。 ②教師が様々な言葉を言い、その言葉に合うカードを考える。 ③班員一斉に指をさす。見たポイントや感じたことを、各班で 述べ合う。 ①～③を、何回か繰り返す。</p>
D	共通点探 し		<p>①神経衰弱のように、絵が見えないようにカードを並べる。 ②同時に2枚めくり、瞬時に共通点を述べる。 ③班員が共感したら、その2枚をもらえる。 ④一番カードの多い人が勝利。</p>
E	探偵ゲー ム	1人 ・ ペア ↓ 班	<p>①1ペア「犯人」のペアを作る。それ以外のペアは「探偵」。 ②絵が見えないようにカードを重ね、「犯人」はそこから4枚選ぶ。 さらにその4枚から、1枚決める。 ③「探偵」は順番に、YES・NOで答えられる質問をする。 ④1巡したら、「探偵」の予想を発表後、「犯人」は正解を発表する。</p>
F	似たもの つなげ	班	<p>①各班に15枚程度のカードを配る。 ②重ねて置いた絵が見えない状態のカードを、一枚めくる。 ③そのカードを「中心」とする。 ④一人一枚ずつめくり、共通点を見つけながら、「中心」の周囲に 並べていく。 ⑤学級全体に発表する。</p>
G	カードで 4コマ	班	<p>①各班に15枚程度のカードを配る。 ②無作為に4枚選び、班員全員でストーリーを考える。 上級生は4枚に起承転結を決める。 ③学級全体で発表する。</p>

水玉の使い手

草間彌生

幻の華

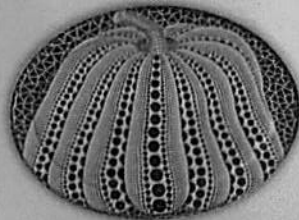


幼い頃から悩まされていた幻覚や幻聴から逃れるために、それらの幻覚・幻聴を絵にし始めた。1957年（昭和32年）に渡米すると絵画や立体作品の制作だけでなく、パフォーマンスと称される過激なパフォーマンスを実行し、1960年代には「前衛の女王」の異名をとった。

死の美しさ



かぼちゃ



都庁ピアノ



狩野永徳の最大のライバル—— はせがわとうほく 長谷川等伯

プロフィール



- ・安土桃山時代
- ・石川県
- ・狩野永徳のライバル
- ・天下一の絵師を目指す
- ・代表作 松林図屏風・楓園壁貼付

しょうりんずびょうぶ 【松林図屏風】



- ・等伯の息子が26歳で亡くなり、その悲しみを背負った等伯が自分自身のために描く
- ・海からの風に耐えながら浜辺に立つ松林。次々と家族や恩師を亡くした等伯のもう戻らないと覚悟した故郷の姿。
- ・この絵の記録が残されておらず、紙の継ぎ目のずれや印が後から押されたものとみられることから、完成作でなく、下絵ではないかといわれている